

風の東西

Vent d'Orient, vent d'Occident

イレヌ・ボワゾベール＋黒田アキ＋小林康夫



風が起り、吹きわたる。

すると、われわれは、人間という存在が根源的に、
時間としてあることを思い出す。

時間が起り、時が流れる。

しかし、われわれの心はなんと重く、動かないのか。

心よ、おまえもまた時間として流れねばならない。

2012年、パリのコレージュ・ド・フランスに招かれて連続講義を行った。そのときにイレヌさんと彼女のアート本をつくっているヴァンサンさんに声をかけられて、いっしょに日本の〈詩〉をもとにした本をつくることになった。半年ほど迷ったあげく、日本の詩の根源は「風」だ！と風の詩句を集めてイレヌさんに提示した。彼女は、その異国の風を全身で受け取って、自分の世界へと「翻訳」した。

今回、イレヌさんヴァンサンさんの来日にあわせて、そうだ福岡のギャラリー「風」こそ、この風がふきわたる場にふさわしい、とオーナーの武田さんをお願いした。

でも、風は東から吹くだけではない。西の風を日本のアーティストが受けとめることでここに真の交流が起るのではないかと急遽、パリ在住の友人・黒田アキさんをお願いして、フランスの「風」の詩に応答してもらうことにした。

風よ、起れ！われわれの生もまた。

小林康夫

Irène Boisaubert

Vit et travaille à Paris.

Née à Boulogne-Billancourt en 1954.

A l'American Center de Paris, elle suit les cours de Ion Vlad et de Raphaël Mahdavi de 1981 à 1986. Puis elle rencontre Gregory Masurovsky qui devient son maître.

Elle apprend l'eau-forte à l'atelier Contrepoint (ex atelier 17).

Son émotion prend forme, couleur et matière dans sa peinture instinctive, recherche des racines perdues, violence du geste : l'instinct du Souvenir.

Irène Boisaubert invente et inscrit une calligraphie secrète suscitée par ses voyages et résidences en Chine, Inde, Israël et Vietnam. La lumière crue de la Provence en été est une source de création : combat de la toile avec la lumière.

Sa gravure sur métal révèle les couleurs à différentes profondeurs liées à la viscosité spécifique de chaque encre, la matière s'y exprime par le métal scariifié.

La démarche picturale d'Irène BOISAUBERT est fondée sur la recherche de la couleur, de sa force, de son énergie. C'est une peinture instinctive qui prend sa source dans l'émotion, l'instant présent mêlé au Souvenir.

黒田アキ

1944年 京都生まれ。パリ在住。

1980年 パリ国際ビエンナーレに出品。ボナール、マチス、ミロ、ジャコメッティ、カルダー等を扱うマダモ・ギャラリー（パリ）と契約。以降ヨーロッパ各国で数々の個展を開催。

1985年 美術文芸誌、「NOISE」を創刊、ジャック・デリダやミシェル・セールなどが寄稿。

1991年 美術文芸誌、「COSMISSIMO」を創刊、ヴィム・ヴェンダース、ウィリアム・クライン、エンキ・ピラルなどが寄稿。

ギリシャ神話世界の女性の立像のシルエットをモチーフに描く作風が知られている。アートワークスとして、2003年 南山城村立南山城小学校（京都府）の校舎、2007年 大手前大学（西宮）メディア・ライブラリー「CELL」の屋上、2008年 東京ドームシティ「Meets Port-JCB HALL」、2009年 宝飾店「モーブッサン」（銀座4丁目）の外観・内装、など。

小林康夫

1950年東京生まれ。

東京大学大学院人文系研究科博士課程修了。パリ第10大学テキスト記号学博士号取得。

現在：東京大学名誉教授、青山学院大学総合文化政策学研究所特任教授。

専門：表象文化論、現代哲学。

主著：「表象文化論講義：絵画の冒険」（東京大学出版会、2016）、「オペラ戦後文化論 I 肉体の暗き運命 1945-1970」（未来社、2016）、「君自身の哲学へ」（大和書房、2015）、「心のアポリア」（羽鳥書店、2013）、「知のオデュッセイア」（東京大学出版会、2009）、「青の美術史」（平凡社、2003）、「表象の光学」（未来社、2003）、「光のオペラ」（筑摩書房、1994）、「知の技法」（共編、東京大学出版会、1994）ほか。



西欧絵画とその背景を読み解き、人文知のありかたの歴史的变化を描く。

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』

テキストの明かりに、人間の魂の〈激しさ〉にふれ、本質に迫るもうひとつの美術史。

ISBN 978-4-13-083068-3 本体 3500円＋税

東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29 電話 03-6407-1069